

【事例②】女子校高校生 K.U さんの 1 年前と今の「じっとみて。」（仙台ランチ・梅鉢屋）

背景
2回目（2014年）の絵本は、病気で入院し、その時に感じ考えたことを表現したものだという。角がない優しい絵は彼女の本質的な性格であると思われる。また、花のシーンで顕著に示される「芯の強さ」は、人を惹きつける魅力の源泉となっているのではないだろうか。一年前と比べて、とても成長を感じさせる作品となった。

1回目（2013.12）

第1シーン【タネ】



たくさんのタネがある。自分の心の中にある様々な感情がカラフルなタネで表現されている。

第2シーン【芽】



愛情に包まれた中に、小さいけれど輝く自分を見いだしている。恵まれた環境にいる自分の存在を確認したのではないだろうか。

第3シーン【栄養】



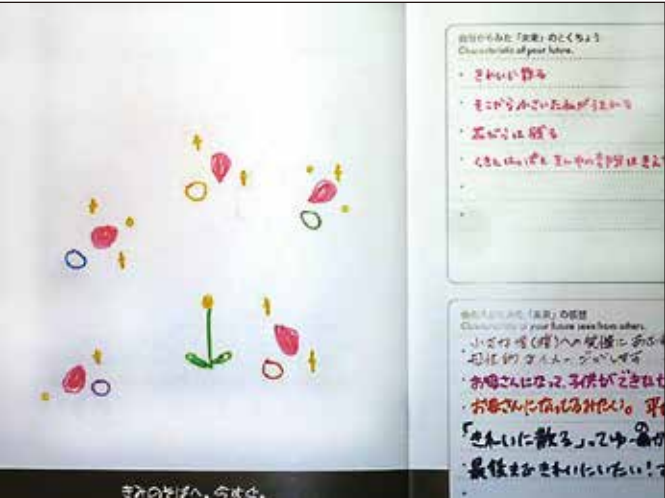
穏やかで暖かみのある環境こそが自らの成長の糧であるとしてしている。

第4シーン【花】



愛情あふれるピンク（単色）の花が描かれている。大輪の花は太陽の光を浴びてまっすぐに見る人を見つめている。

第5シーン【未来】



小さなタネ（自らの分身）を残しつつ、花卉は輝きながら残り続ける絵が描かれた。死生観が現実化されていない若さが表現されている。

2回目（2014.12）

第1シーン【タネ】



様々な個性を持つ他者との関わりの中に存在する自分が表現された。人には知れない悩みを持つタネとして自分をとらえている。

第2シーン【芽】



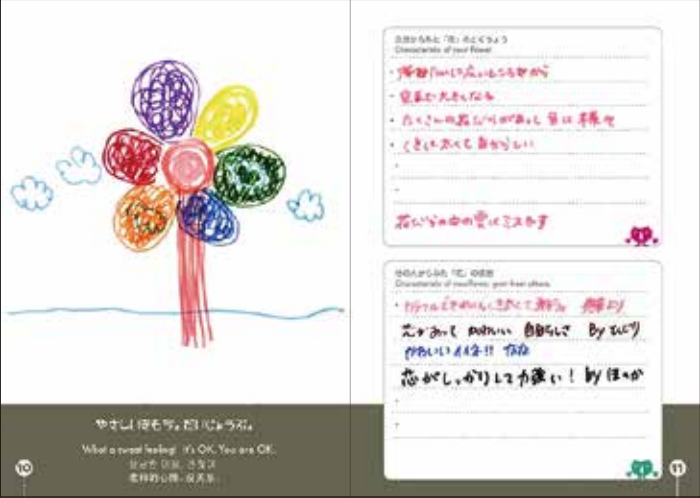
周囲を見渡す余裕ができた。葉の数や色が増え、自らの可能性が膨らんだ。しかし、それゆえ周囲と比較し、「これ」と決められない自分にいらだっている様子がうかがえる。

第3シーン【栄養】



タネから出た茎は蛇行し、自らを取り巻く環境の一つとして雷雨（試練）をも描き入れている。まっすぐ思い通りには成長できない、または成長することは難しいという不安心が表現されている。

第4シーン【花】



太い茎（幹？）が大地より出でて雲すら突き抜けるほどの高さまで成長している。花卉は多色になり、自分が持つ可能性のすべてを花咲かせたいという未来への決意が示されている。

第5シーン【未来】



タネの多様性や植物（作者自身）の行く末が描かれている。相当上空から俯瞰して描かれた絵のように見える。少し世間を客観的に見られるようになったのだろうか。成長の証だとも言える作品。